広島市
教育センター

6月号

ミニレター

「グローバル化に対応した高等学校英語授業力アップ研修」より

◆１ページ
・研修紹介（グローバル化に対応した高等学校英語授業力アップ研修）
・学校紹介
（神崎小学校）

◆２ページ
・授業づくりシリーズ
学ぶ意欲が高まる授業を目指して
（社会科編）

研修紹介　アクティブ・ラーニングを取り入れた英語授業

５月２０日に，実用英語推進機構の安河内哲也代表理事をお迎えし，「**アクティブ・ラーニングを取り入れた英語授業**」をテーマとした研修を実施しました。

この研修では，**「生徒主体の活動を設定すること」**を大切にした授業の実際を，受講者が模擬授業形式で体験しました。

今回は**「生徒主体の活動を設定する」際の３つの留意事項**について紹介します。

受講者全員が活発に，また表情豊かに活動する姿や講師自身が楽しみながら模擬授業を行う姿は，大変印象的でした。

なお，生徒主体の活動以外にも「４技能を総合的に扱うこと」「５０分の授業の中で身に付けさせること」も大切であると紹介されました。

３つの留意事項

○　生徒に考えをもたせるための問いを工夫する
- 正解が1つではない問いを設定する
- 生徒が興味をもつような問いにする

○　生徒の発話量を増やす
- スピーキングでは間違いを指摘しない
- 間違うことで成長することを伝え続ける
- 何とかして相手に伝えようとしている姿勢をほめる

○　生徒主体の活動を行う時間を生み出す
- 本文訳や文法の説明事項などは事前に配付する（説明や板書の時間の削減）
- プレゼンテーションソフトを活用する

学校紹介　「志高く　美しく」生きる子どもの育成

～学校・家庭・地域の三者が同じ教育目的で取り組む地域運動～

神崎小学校

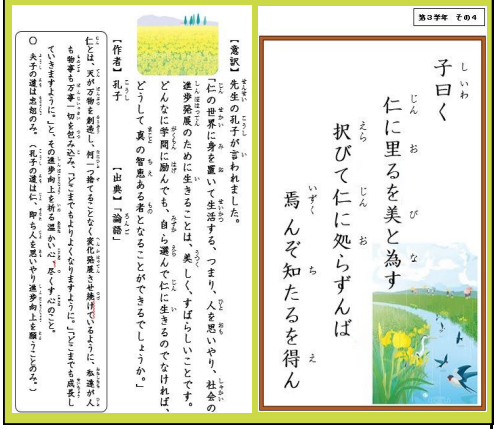
神崎小学校では，学校・家庭・地域が一体となり，**「笑顔輝け！神崎っ子運動」**に取り組んでいます。この運動の**「見える化」**を計画的に推進してきたことで,常に三者が同じ教育目的をめざすことができています。

中でも昨年度発行の神崎読本**「人生の道標」**には，古の聖賢の教えが掲載されており，毎朝全クラスで朗唱することで，落ち着いた気持ちで学習に取り組むことができています。

この取組は，より高い自己実現への意欲を高めたり，行動の判断基準の一つとして身に付けさせることをねらいとしているもので，児童が気持ちよい挨拶をする様子などを，地域の方が学校に伝えてくださることも多くなりました。地域で認められることで，児童も**「町の人達にいつも見守られている」**という思いを強くしています。

また，この取組は在校時だけではなく，卒業後も子ども達の心に「人生の道標」として根ざしていくことや，児童が地域の推進人物となる30年後，50年後のまちづくりに生かされることを目指しています。

「人生の道標」内容



【意訳】先生の孔子が言われました。
「仁の世界に身を置いて生活する、つまり、人を思いやり、社会の進歩発展のために生きることは、美しく、すばらしいことです。どんなに学問に励んでも、自ら選んで仁に生きるのでなければ、どうして真の智恵ある者となることができるでしょうか。」

【作者】孔子　【出典】「論語」

仁とは、天が万物を創造し、相一つ捨てることなく変化発展させ続けているように、私達が人も物事も万事一切を包み込み、つねにそれよりよくなりますように、いつまでも成長していきますように、その進歩向上を祈る温かい心「思いやり」のこと。
夫子の道は忠恕のみ。（孔子の道は仁、即ち人を思いやり進歩向上を願うことのみ。）

第3学年　その4

子曰く
仁に里るを美と為す
択びて仁に処らずんば
焉んぞ知たるを得ん

「笑顔輝け！神崎っ子運動」　『見える化』の流れ

平成２５年度

「躾の三か条」

- ステッカーを全家庭に配付
- 幟を設置

平成２６年度

「神崎っ子の誓い」

- 児童のランドセルに装着

平成２７年度

神崎読本「人生の道標」

- 全児童に６年間配付

- 毎朝全クラスで朗唱

- 校門で高学年が低学年にあいさつ

～子どもの心に火をつける～

学ぶ意欲が高まる授業を目指して

授業づくりでは，子どもの学びを視点にした授業改善が求められており，日々，学校で取り組まれていることと思います。学力には**「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学ぶ意欲」**の３つの要素があり，それらをバランスよく育成することが求められています。

その中でも，子どもが主体的に学習に取り組む**「学ぶ意欲」**については，これからますます求められる重要な学力です。子どもたちの**「学ぶ意欲」**を高めるためには，学習過程の

「導入場面」「課題認識場面」「課題解決場面」「振り返り場面」の中で，例えば**「試行錯誤する活動」**や**「対話する活動」**など，子どもが主体的になれる活動を仕組むことが重要です。

本コーナーでは，これらの場面における指導のポイントについて，各教科の実践を題材として，毎月シリーズで紹介していきます。

課題認識場面の工夫　生徒の常識をゆさぶって作る学習問題　社会科編

社会科では，**課題認識場面**における**学習問題**が，特に重要になります。今回は，生徒の常識をゆさぶって学習問題を設定することで，生徒が主体的に課題解決を行った中学校社会科の例を紹介します。

中学校第１学年「アフリカ州」
＜東原中学校　重　秀雄　教諭の実践＞
※実践は平成２７年度１１月の祇園東中学校での実践です。

導入場面

「アフリカの歴史」についての知識の習得　（・奴隷　・植民地支配　・独立）

アフリカの人たちは，このような歴史に対してどのような思いをもっているのだろうか。

○「１６世紀以降，**屈辱的な思い**をもっているのではないか。」
○「今も貧しい暮らしの人が多いのは，その時のせいだと思っていると思う。」
○「もし自分だったら，早く**忘れたい過去**だと思う。」

課題認識場面

生徒の常識をゆさぶる資料の提示

・本来のアフリカの言語　・植民地時代の公用語　・現在の公用語

これら資料を見て，不思議に思うことはありませんか。

○「今も植民地時代の旧本国の言葉を公用語として使っているって**どういうこと？**」
○「もともとの自分たちの言葉だってあるのに**なぜ？**」
○「植民地時代のことは，**早く忘れたい過去ではなかったの？**」

今日考えてみたい問題は何ですか？

生徒が考えたい学習問題

なぜ独立したにも関わらず，アフリカは今でも旧本国の言葉を公用語として使っているのだろうか。

主体的な問題解決へ

課題解決場面

主体的な話合い

旧本国の言葉を使わなければいけない何かがあるんだよ。

貿易相手国が旧本国という資料は関係ありそうじゃない？

資料コーナーでの自主的な資料探し

他にも根拠になりそうな資料がないかな。

民族紛争の資料はこのことに関係ないかな？

振り返り場面

次時の課題へ

【アフリカの展望へ】
○今後，アフリカは，どうしていけば良いのだろうか。

【他地域への広がり】
○アフリカ以外の植民地支配を受けた国の状況はどうなのだろうか。

【経済を視点に広がり】
○日本の貿易など，経済について知りたくなった。